

すいしんいんセッション

～ 推進員同士で本音で語ろう！知恵と工夫を寄せあおう！～

< 推進員仲間とつながり、一緒に悩み、一緒に一歩！ >

認知症カフェに関する質問

質問：

高齢化率が52%という超高齢の町で推進員をしています。推進員としての仕事はサポーター養成講座と介護者のつどいを開催しています。包括職員さんと二人仕事なので認知症カフェの開催が上手くできず悩んでいます。

回答：

(近藤さん)

推進員の仕事の全工程をすべて推進員が行うことは不可能です。包括職員以外にも協力者は地域にいると思いますので、いろいろな取組において、協力してくれそうな人を探すことをされてはいかがでしょうか。高齢者が52%いるのであれば、仕事で協力できないという人は少なく、高齢者自身の健康のためにも活動していただける人に役割を持ってもらうように協力者を探せば、まさにそれは支える・支えられるの概念を超えた取組になると思います。

(金谷さん)

何をもって上手くいかないと判断されているのか分かりませんが、認知症の人も地域の人も楽しく参加出来、自分の参加しているカフェで「こんなことがしたいなあ、こんな場所にしたいなあ」と考え、皆で一緒に創り上げることが出来ていたら、良いのではないかと思います。その為に参加者の声を聞き、一緒に考えるということを継続していくことが大切だと思うので、本人にまず「どんなカフェだったら参加したいか」聞いてみることも必要かもしれません。

(真子さん)

私も自分の地域で認知症カフェをやっていますが、うちのカフェのお世話人さんは、地域住民さんなので、包括に負担をかけることなく、実施することができています。一時期、お世話人さんが3人まで減り、運営ができなくなりそうな時に、カフェの目的をもう一度、お世話人と一緒に考えました。その後、その目的に賛同していただけたような方に、私ではなくお世話人さんが声をかけてくださり、現在では10名のお世話人さんが一緒に考え、開催してくれています。認知症カフェは、あくまで手段なので、開催の有無ではなく、開催する目的や内容を大切にしています。近隣の町で開催されているカフェは、専門職の住民さんがお世話人をされているところもありますよ。

(速水さん)

カフェの目的をどこに置くかによると思います。介護者のつどいができているのであれば、そのつどいに認知症本人にも来てもらえばそれでカフェになるのではないかと思います。カフェという言葉に引っ張られると、参加者をもてなさないやならないというように考えてしまいがちですが、必要であれば飲み物や食べ物は持参という形で十分ではないかと。本人が気軽に集まって話ができる場所でもいいんじゃないかと思います。

(谷口さん)

うまくできないと考えられる理由は何でしょうか？ 本人が行きたいと思うカフェになっているか、本人の行ける場所にあるか、等色々と改善してみるとうまくいくかもしれません。

(那須野さん)

サポ講座、介護者の集いの開催、推進員、包括と二人仕事で取り組んでいることが素晴らしいですよ。自信を!! サポ講座や介護者の集いをベースに参加者に共に取り組んでくれる仲間としての働きかけ、サポ講座も既存に捉われず対話型や新しい認知症観を共有する形で参加者と一緒に行ってみることが次の活動展開の一歩になると思います。

(神崎さん)

認知症カフェはあくまでも手段であり、当事者の方が何を望んでいるのか聴取する必要があるかと思います。目的を明確にすることが必要かと思います。高齢化率が高い地域では担い手不足と思われますが、高齢の方でもお元気な方はいらっしゃると思うので、一緒にどのような地域にしたいか共に考え検討していくことが大事であると思います。

すいしんいんセッション

～ 推進員同士で本音で語ろう！知恵と工夫を寄せあおう！ ～

< 推進員仲間とつながり、一緒に悩み、一緒に一歩！ >

認知症カフェに関する質問

質問：

コロナウイルスでカフェが休止してしまっているところの再開がなかなか難しい状況にあります。どのように再開に繋がっていているのか知りたいです。

回答：

(近藤さん)

再開が難しい理由は为什么呢。カフェの運営をされている人と理由を共有し、その理由により支援方法が変わると思います。

本市は、コロナで休止後にやめてしまったところもあります。逆に新たに立ち上がってるところもあります。一律にこうすれば万事解決という方法はほとんどのケースでないと思いますので、ひとつひとつカフェの当事者に向き合っていくしかないと思います。

(真子さん)

そのカフェの運営主体やお世話人の状況、どのような経緯でカフェが作られたのか、地域性などがわからないので、参考になるか不安ですが…。カフェの再開に繋がらない原因はどこにあるのでしょうか？運営する側が、カフェの必要性を感じていないのか、お世話人さんが集まらないからか、負担が大きいからか。その理由によって、働きかけ方が変わってくると思います。主さんは、なぜカフェを再開したいと思われているのでしょうか？

私のところでも認知症カフェをやっていますが、コロナ禍でお世話人さんが3名まで減り、運営が難しい状況になりました。その時、改めて、なぜ認知症カフェをおこなうのか、認知症カフェのその先が何に繋がるのかをお世話人さんと一緒に考え、明確にしました。すると、やっぱりこの認知症カフェは続けていかないといけないという意識へ変わり、お世話人さんがお世話人さんを連れてきてくれました。なぜ必要なのか、カフェの運営側とお話するのも良いかもしれませんね。

(速水さん)

なかなか難しいですね。釧路市の場合は、地域密着型事業所の地域交流の形でカフェを開催していたところが多かったため、大打撃でした。ただ、5類移行後は集まることの必要性を感じたボランティアの人たちが、自分たちの判断で再開していました。再開したいと言われたときに反対しないことが重要かもしれません。

(谷口さん)

再開を望んでいる人がいるかどうか、望む人たちがいれば、どのようにすれば再開できるかを考えてみてはいかがでしょうか。ニーズがない中で再開をすると「人が来ない」といった課題が出てくるとと思いますが、カフェの運営自体を見直すきっかけになると思います。

(池原さん)

福山市北部包括もコロナウイルス感染拡大のためにカフェを一旦休止しました。再開するにあたり、以前参加されていた方に連絡をさせていただきました。まずは、認知症のある方や家族に声をかけて、回数を重ねる度に認知症に関心がある方へも声をかけていきました。

(那須野さん)

再開を急ぐこともないと感じます。地域の声、本人の声、仲間の声など積み重ねて、その延長に再開があればそのプロセスで繋がった方々や声のカフェ以上の財産になると思います。

(神崎さん)

地域住民からの要望があれば、休止しているところに呼びかけてみてはいかがでしょうか。

すいしんいんセッション

～ 推進員同士で本音で語ろう！知恵と工夫を寄せあおう！ ～

< 推進員仲間とつながり、一緒に悩み、一緒に一歩！ >

認知症カフェに関する質問

質問：

せっかくカフェに参加をしていた方が物忘れが出てきて、日にちを忘れて参加をしなくなっていたことが後で分かってショックだったのですが、参加しなくなった方の後追いはどこまでしていますか？

回答：

(近藤さん)

リピーターが来なくなったことで心配であれば、専門職として行動すればよいと思います。個別ケース対応の分類かと思うので、心配ならアクションを起こすでいいと思います。一律な基準はなじまないです。本市は、同じようにリピーターだった人がコロナ後に来ないことを心配した他のメンバーが家族に声をかけ、本人が認知症を理由に周りに迷惑をかけるから来なくなった事例がありました。迷惑ではないから、他のメンバーが認知症を理解して、安心して本人が来れるようにしたいと経過をたどり、チームオレンジになりました。

(真子さん)

物忘れが出てきて、参加できなくなったその当事者の方は、今後もカフェに参加したいという想いをお持ちですか？私は、直接話を聴きに行くチャンスだと思い、自宅を訪ねていくと思います。カフェに行かなくても、本人さんに何かやりたいことないですか、一緒に考えませんか？とお聞きすると思います。

(速水さん)

その人がもの忘れをしてもカフェに参加したいのであれば、カフェに来るためのお手伝いするチームオレンジを立ち上げればよいと思います。カフェに参加させるためだけの後追いは不要と考えます。

(谷口さん)

日にちを忘れて参加しなくなったことを本人はどう思っているのか。本当は行きたいのに日にちを覚えられない、のであれば、誰かが声をかけるとか、スマホでアラーム設定する(実際それでスケジュール管理している当事者もいます)とか、いろいろ工夫できると思います。今は行きたい気持ちではない、という場合は無理に連れ出さなくても、家に出向いて本人の気持ちを聞くなどしてみてはいかがでしょうか？

(池原さん)

参加されなかった時は後で連絡をして、状況の確認と次回の予定を伝えるようにしています。本人が参加したい想いがあり、日にちを忘れて参加できなくなったことがわかった時、本人と一緒に参加できる方法を考えてみてはどうでしょうか？必要と判断されたときには、介護保険の申請も同時進行で行い、包括職員、家族とも連絡をとり参加できる方法も検討しています。

(那須野さん)

無理に後追いせずに、参加が心地よいものであれば続ける、嫌な所であれば辞める、本人の気持ちに寄り添うことが後追いなのではないでしょうか？参加に対しての工夫を本人や仲間と考える事がチームオレンジではないでしょうか？と思います。

(神崎さん)

本人が必要とするタイミングで良いのではないのでしょうか。